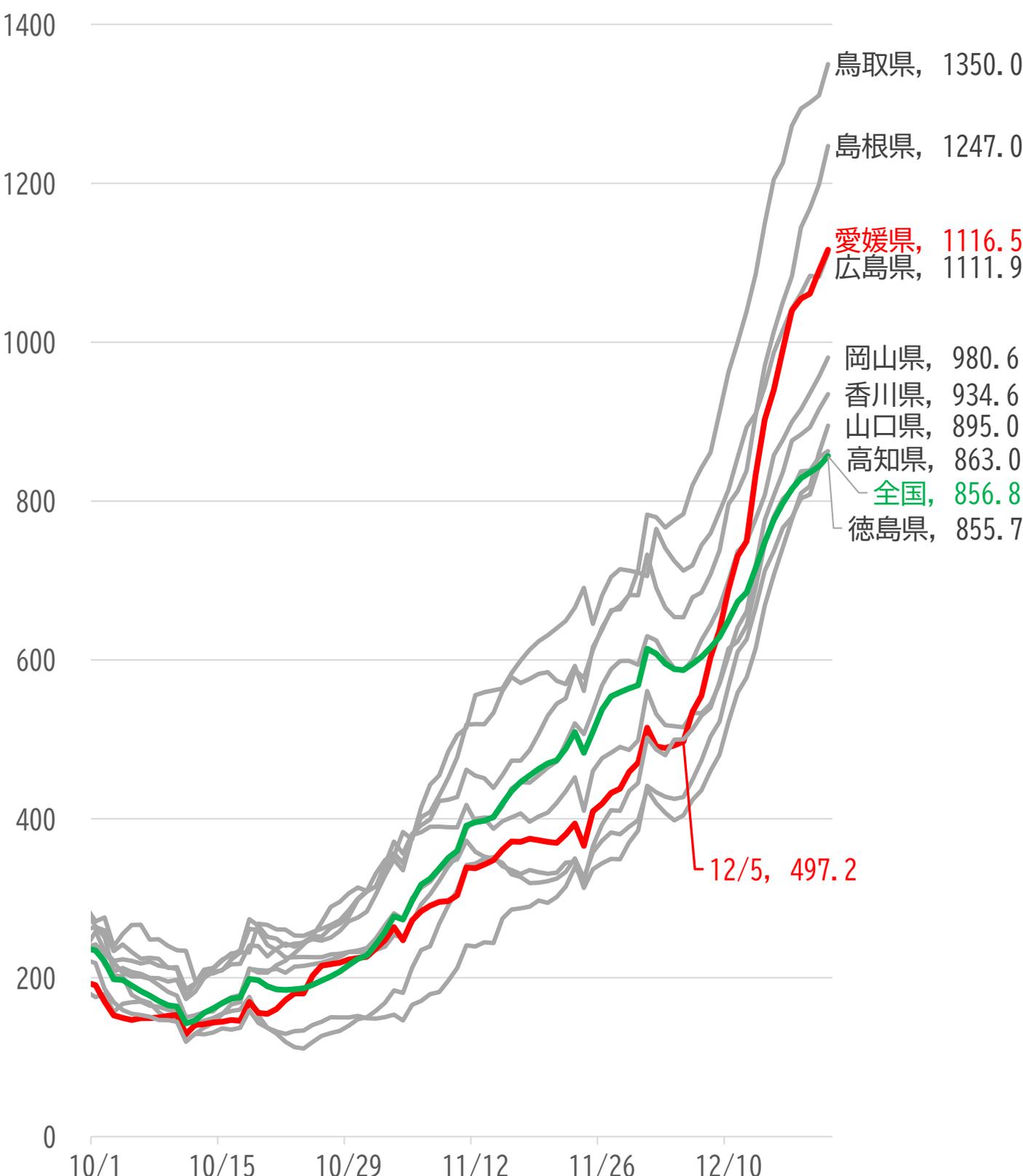


都道府県別 陽性者数の推移 (人口10万人あたり1週間累計)

【近隣県(中国・四国)との比較】 10/1~12/21公表

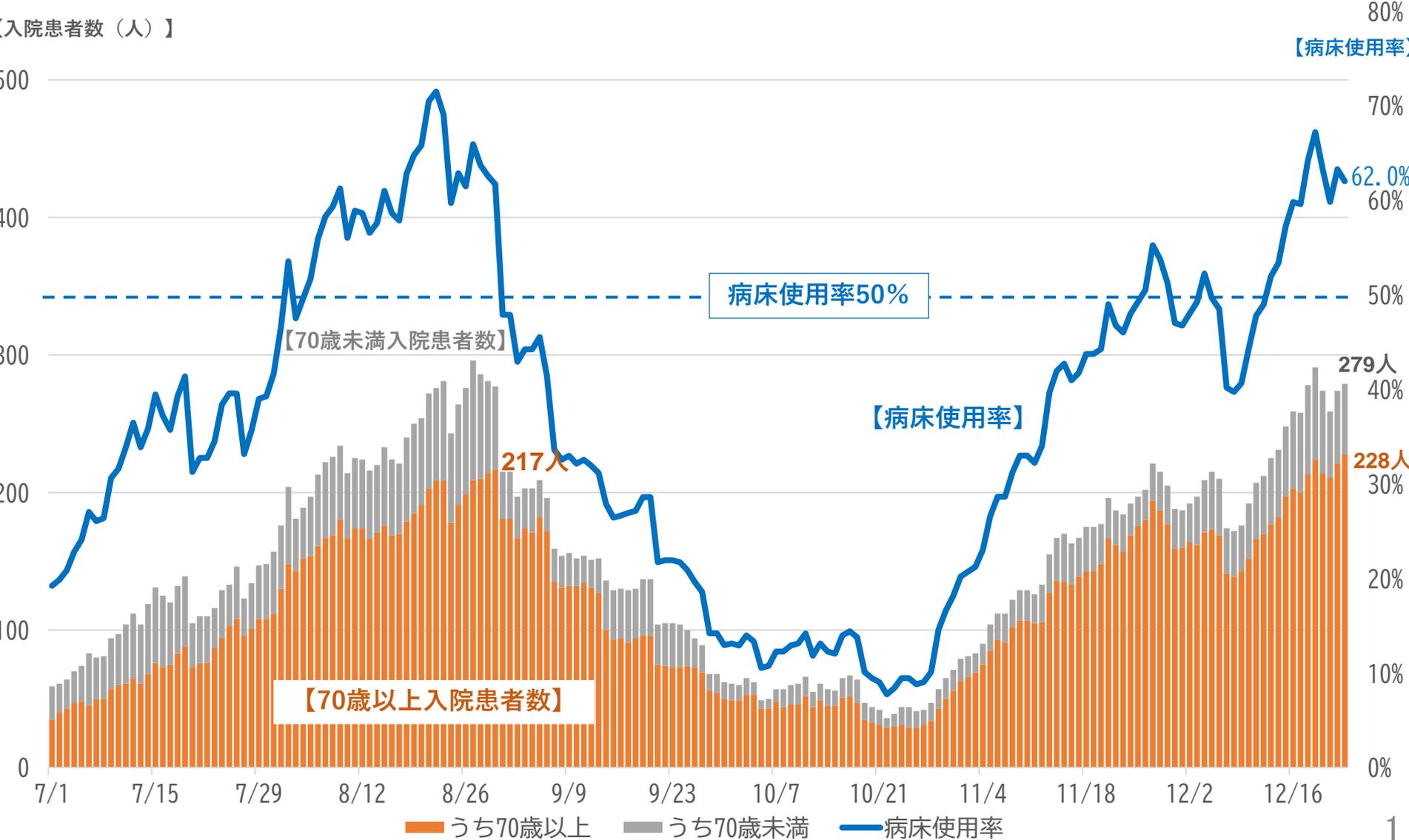
- 周辺県も含めて感染が急拡大
- 県内の警戒レベルを特別警戒期間に切り替えた12月5日からわずか20日弱で2倍以上の水準まで上昇



病床使用率及び入院患者数の推移

7/1~12/23公表分

- 病床使用率は、**60%前後の高い水準で推移。**
- 入院の8割を占める70歳以上の入院患者数は、**第7波のピーク時を超えている状況**



医療現場からの声

- 入院患者が急増する一方、職員や家族の感染等による欠勤者が増え、マンパワーが不足
- 休日・夜間に症状の軽い方も多数発熱外来や救急病院を受診し、ひっ迫
- 症状の軽い方は可能な限り、平日の日中に受診してほしい
自己検査の活用もお願いしたい

4 学会（日本感染症学会等）声明等の目安 を踏まえた受診行動

○**症状が軽い**：飲んだり食べたりできる、呼吸が苦しくない
※発熱があっても、上記に該当する場合は「症状が軽い」

➡ 高齢者や重症化リスクがある方でなければ
抗原検査キットによるセルフチェックを行い
陽性の場合は、「県陽性者登録センターに登録」

○**症状が重い**：水分が飲めない、ぐったりして動けない
呼吸が苦しい・速い、乳幼児で顔色が悪い

➡ 「電話相談や医療機関の受診」

自宅療養経験者からの声

- 体験談が寄せられた11名は、20～50代で重症化リスクが低く大半が微熱や咳、のどの痛みなどの軽い症状。
- 38度以上の発熱があった方も市販の解熱鎮痛薬の服用により1～3日後には軽快

事前に準備した方が良いもの

- 市販の解熱鎮痛薬や喉の炎症等を抑える薬
- 3日分の水やゼリー、食料等（特に単身者）
- 国が承認した抗原検査キット
（薬剤師が在籍する薬局等で購入）

自宅療養のアドバイス

- 同居家族がいる場合は、別室で療養。
食事と入浴は特に注意が必要
- 自己検査で陽性になったら、陽性者登録センターに登録すれば、心配な症状は24時間電話相談が可能

年末年始のお願い

- 年代や症状、重症化リスクの有無等に応じた受診行動
 - 抗原検査キット(国が承認したもの)や市販薬、3日分の水・食料等の事前準備
 - 「陽性者登録センター」の活用
- 定期的な換気の習慣化
- 会食ルール徹底
- 無料検査の積極的な活用